



私の珠算の学び

東京大学3年 今村 太耀

私は自宅近くの教室で、小学校3年生から珠算を習い始めました。そのきっかけは仲の良い友だちが通っているからというとても些細なもので、入った当時は学校以外で友だちと会えることが嬉しくて珠算を始めた気がしています。元々算数が好きだったのもあって回数を重ねるごとに珠算の楽しさにも気づくようになりました。特に暗算はそのまま学校のテストや課題にも活かすことができすぎてありがたかったです。

それから一年ほどして仲の良かった友だちは珠算をやめてしまいました。少し残念でしたがだんだん珠算が楽しくなってきた矢先だったので、その友だちの成績を超えることを目標に珠算を続けることを決意しました。それから一、二年でその目標は達成することができました。

その後も順調に上達していったのですが、珠算検定試験一級で初めて不合格になり落ち込んだのを覚えています。何回か受けたのですがいつもあと少しのところまで合格できないことが続きました。心が折れそうにもなりましたが、ここまできたなら絶対合格してやるという気持ちも芽生え始め、無事合格を勝ち取れました。その時の達成感は今でも鮮明に覚えています。

中学生になって珠算の色々な行事にも参加するようになりました。自分が通う珠算教室以外の人や全国に名を連ねる人たちのレベルを体感するなど、多くの刺激を得ることができました。自分の年齢の半分ほどの小さい子が難しい問題を楽しみながらこなしている様子は、珠算の世界の奥深さを知るきっかけにもなり、私ももっと小さい頃から始められていたらと思ったことは少なくありませんでした。中学生になるとどうしても平日は時間が取られてしまうのでだんだん珠算にかけられる時間が少なくなっていました。しかし、その限られた時間の中でも精一杯に練習に励んだ結果

順調に成績は向上していきました。

そんな私も気が付けば高校生になり、自分の通う教室の生徒の中で一番上になっていました。高校生になるとさらに時間がなくなり、勉強の難易度も上がってきたこともあって高校一年生の途中で珠算を離れることになりました。

自分はとても短い期間しか珠算と関わることができませんでしたが、そんな中でも大きく3つの学びがありました。一つ目は、試験の緊張感に慣れることができました。普通の試験以上に珠算の検定試験は緊張などの精神状態が大いに関わってきます。試験に慣れるまでは開始数分は手が震えてうまく計算ができないことも多かったです。時間もそれほど余裕があるわけではないので限られた時間で問題を捌く能力は高校や大学の受験にも役立ちました。二つ目は、純粋な計算・記憶能力アップです。試験やテストの計算はもちろん買い物での費用の計算や料理のレシピを人数分に換算するときなど日常生活でも計算をする機会は思ったよりたくさん存在します。電卓を準備して計算することもなくちょっとした楽ができて嬉しいことが多いです。最後に学び続ける心です。前に述べた通り珠算を通して多くのすごい実力の人たちを目の当たりにしました。どの分野にも上には上がいることを初めて具体的に実感するいい機会でした。今の自分の実力に満足することなく常に向上心を持って取り組むことが学ぶものの志として大切だと感じました。

現在自分は大学三年生になり東京大学理学部数学科に所属しています。大学の数学では四則演算のような計算はあまり登場しませんが、数学に興味を持った今の自分はこれまでの珠算をやってきて計算が楽しいと感じた経験の積み重ねの上に成り立っていると感じています。将来の道が決まって一段落したら再びこの道に戻ってきたいです。